



健診センターニュース



乳がん検診について

乳がんは、がんの中でも女性がかかる割合がトップで、11人にひとりの女性が生涯でかかるとされています。早期の乳がんは自覚症状がないことが多いですが、しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液が出る、乳頭の湿疹やただれなど、気になる症状がある場合はすぐに医療機関を受診しましょう。

早期発見、早期治療のために乳がん検診はとても重要です。乳がんの早期発見のための検査としては、乳房X線検査(マンモグラフィ)や乳腺超音波(乳腺エコー)検査が代表的です。マンモグラフィとは乳房をプラスチックの板で挟んで撮影する検査で、小さいしこりや石灰化を見つけることができます。乳房が圧迫されるため痛みを感じることもあります。乳房が圧迫時間は数十秒ほどで、放射線被ばくによる健康被害はほとんどありません。乳腺エコーは、乳房に超音波を当てその反射波を画像に映し出し、病変の有無やしこりの大きさ・性状、リンパ節の腫れなどを調べます。検査時間は15分程度です。

Q. マンモグラフィとエコー、どちらがいいですか？

マンモグラフィは、まだしこりになっていない早期がんの特徴的な症状である石灰化像の発見に優れていますが、乳腺組織が豊富な若い女性では、乳房全体が白っぽく映るので石灰化像が判読困難になり診断率が下がります。一方、エコー検査は乳腺組織が豊富な場合に有利ですが、石灰化像が映らないので、しこりがない早期がんの検出には不向きです。したがって、乳腺の厚みによって年代毎に検査方法を変えるのが合理的です。30代はエコーを優先し必要ならマンモグラフィも施行。40~50代は乳がん年齢なのでマンモグラフィを優先しエコーも併用する。60代以上は乳腺が萎縮し脂肪に変わるためマンモグラフィだけでも十分だと思われます。

乳がんの発生リスクを高める要因としては、初潮年齢が早い、閉経年齢が遅い、出産・授乳経験がない、閉経後の肥満、飲酒や喫煙などの生活習慣、血縁者で乳がんになった人がいる、などがあります。ただし、該当する人が必ず乳がんになるわけではありませんし、該当しなくても乳がんになる可能性があります。

厚生労働省は40歳以上の女性に対し、2年に1度の乳がん検診を推奨しています。

もし、乳がん検診で「要精密検査」「異常あり」という結果の場合は、必ず医療機関(乳腺外来)を受診してください。



ハロウィンの由来

10月31日は仮装の一大イベント「ハロウィン」です。ハロウィンは、ヨーロッパの民族ケルト人の収穫祭が起源とされ、のちに移民によってアメリカに伝わり現在のようになつたそうです。11月1日のキリスト教の祝日「万聖節」の前夜祭として、秋の収穫を祝うのと魔物を追い出すという意味をもつお祭りです。悪魔や魔女がやって来て災いをもたらすとされていたので、身を守るために仮面をかぶったり、悪霊や魔女の恰好をして、仲間にみせかけたり、追い払おうと考えたのが仮装の始まりです。子供たちが、家族のもとへ戻る死者の魂に扮れてやってきた悪霊に扮して、近所の家々を訪ね

「Trick or Treat(お菓子をくれなきゃイタズラするぞ)」と声を掛けると、大人たちが「Happy Halloween!(ハロウィンおめでとう)(良いハロウィン

を!)」と言って、チョコレートやキャンディなどのお菓子をあげるとするのが風習です。黄色いカボチャをくり抜いて作るランタンは「ジャック・オー・ランタン」と呼ばれ、悪霊が怖がって逃げるなどと言われており、玄関や窓辺に灯してハロウィンを迎えます。

日本のハロウィンは、本来の意味とは異なり仮装を楽しむイベントとして定着してきました。大人たちは魔女や悪魔など多彩な仮装をして街中に集まるようになり、町内会や商店街、子供会のイベントとして、子供たちが商店街や近所の家々を回ってお菓子をもらったり、仮装コンテストなど、小さな子供たちも楽しめる行事に変化してきています。



健診センターからのお知らせ

—新型コロナウイルス感染症対策について—

平熱を知るため1週間程度検温してご来院ください。発熱、感冒症状、息苦しさ、強いだるさ、下痢などの症状がある又は続いている場合や2週間以内に感染流行地に行かれた方は、受診していただく事ができません。来院できない場合は健診センターまでご連絡ください。感染予防のため、マスク着用、手洗い、換気等にご協力ください。

健診のご予約・お問い合わせは
下記までお気軽にお電話ください。

624-0906
舞鶴市字倉谷427 健診センター
TEL (0773) 75-1920
FAX (0773) 75-7380
月~金 8:30~17:00
(土・日・祝日・年末年始12/29~1/3・創立記念日6/1休)

